

## 「CLS」が高度化させる金融市場 - 決済制度、資金市場、通貨制度、金融機関の変貌

UFJ銀行 宿輪 純一

昨年9月に稼動を開始した、全く新しい「多通貨同時決済システム:CLS」の目的と仕組み、特に外為決済リスクを削減する上でいかに有益かを説明する。さらにCLSの影響により各国の「金融市場」が高度化していく方向を展望する。日本の金融市場を高度化し、日本円を中心としたアジア通貨制度を推進するためにも、CLSを活用すべきである。

「決済リスク」は米国の9.11テロやペイオフの影響があり、注目が集まる。特に「外為決済リスク」は、時差の存在により、一層管理が困難であった。外為決済は世界全体で1日当たり約3兆ドルに上っており、外為に活発な金融機関では、巨額の決済リスクを抱えており、金融市場にとっても深刻な課題となっている。

外為決済リスクの削減に最も効果的なものが「CLS (CLS銀行)」である。CLSは2002年9月9日に約60行の参加により稼動を開始し、7通貨(米ドル、加ドル、英ポンド、ユーロ、スイスフラン、日本円、豪ドル)を取扱う。CLSは「外為取引における2通貨の同時決済 (PVP)」を連続的に行う機能を持つ、全く新しいグローバル多通貨同時決済システムである。

CLSには参加金融機関が増えて取扱量を増やす他、取扱通貨を増やし、さらに証券取引も取込む計画もあり、さらに影響力を増す。

各国の「決済制度」は親密度が増し、決済リスク管理もより高度化される。証券をも取扱うことにより、「証券制度」も影響を受ける。支える「資金市場」も効率的な日中流動性市場が必要となる。「法律制度」も決済完了性(ファイナリティ)を確認されて整備され、共通化が図られる。「通貨制度」も、取扱通貨間は決済リスクが軽減され、通貨の親密さが増大する。通貨特にアジア通貨についても多数対応可能となるため「アジア共通通貨」へ向けたワンステップとなる。「金融機関」はリスクを軽減するが、事務は複雑でオペレーショナルリスクが増加するなどして、二極分化する。

CLSという多通貨同時決済システムは、世界の決済を接続するということを通じ、単に決済制度のみならず、証券制度、資金市場、法律制度、通貨制度、金融機関にまで影響を与え、高度化・変貌を促す。

アジアの他の通貨も参加により、アジアとの経済・金融関係が深まり、アジア通貨圏・共通通貨の礎となる可能性も高い。決済改革も通貨戦略とリンクした「国家的な戦略」として推進することが必要となる。